

教育に使われている税金

江戸川区立瑞江第二中学校3年 桑原 真琴

私たちが学校で学んでいる教科書や使っている机、そして授業を教えてくれる先生たちは全て「税金」というお金で支えられています。税金は国や地域の政府が集めて、みんなの生活を支えるために使われるお金です。その中でも教育に使われている税金は私たちがしっかりと勉強できる環境を整えるためにとっても大切な役割を果たしています。

例えば、学校の図書室に新しい本がたくさん増えました。前までは、人気の本がすぐ貸し出し中になってしまっていたのですが新しい本が増えたことで、より多くの本を読むことができるようになりました。図書室の本が充実しているのも、税金が使われているからだ」と知り、税金の大切さを感じました。

また、先生たちのお給料も税金で支払われています。先生たちは、私たちに必要な知識などを教えてくれる大切な存在です。そんな先生たちが安心して働けるように、税金が使われているのです。学校の先生は、いつも親身になって生徒に接してくれます。先生が「生徒へ教えたい」という思いで一生懸命教えてくれるのも、先生が安心して働ける環境があるからだ」と思います。

さらに、給食や修学旅行といった学校生活を充実させるものにも税金が使われています。たとえば、給食があることでみんなが栄養バランスの取れた食事を毎日食べることができます。これも、税金が支えているからこそ可能になっていることです。私たちの学校では給食で江戸川区の特産品「小松菜」を使ったメニューが出ることもあり、それを食べるのが楽しみです。おいしい給食を毎日食べられるのも、税金のおかげだと考えると、とてもありがたい気持ちになりました。

教育に使われている税金は、私たちの未来をつくるための大切な投資です。今、私たちがしっかりと学べる環境があるのも、みんなが納めた税金のおかげです。だからこそ、私たちは学ぶことに感謝し、一生懸命勉強することが大切だと思いました。将来、私たちが大人になったときには、自分たちも税金を納める立場になります。その時には、私たちが支払った税金が、次の世代の子どもたちの教育に使われていることを知り、社会に貢献していることを実感するはずです。こうして、税金を通じて世代を超えて支え合い、より良い社会を作っていくと思います。私たち一人ひとりがその一部となって、未来のために努力することが、社会の発展につながると信じています。